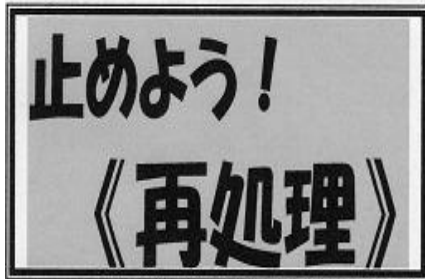


**三陸の海を放射能から守る**  
**岩手の会** (略称) **三陸の海・岩手の会**  
 郵便振替 02240-5-102650  
 ホームページ《再処理／岩手の環境》  
<http://sanriku.my.coocan.jp/>  
 《本紙の全バックナンバー掲載》



《**天恵の海**》  
 2018(平成 30)年  
 7月 10日  
 第190号  
 編集事務局 S.Oshida  
 TEL・FAX 019-623-1636

# 放射能は一滴も海に流すな!

## 豊かな三陸の海を守る会 総会開催

### 総会決議文 (要旨)

- ◇再処理工場の廃液による海の汚染に反対して立ち上がった2005年以降の運動を継続し推進します。
- ◇国民の半数以上が原発再稼働に反対しています。六ヶ所再処理工場が稼働し放射能汚染が始まれば三陸の復興は大打撃を受けます。だから私達は全力で反対します。
- ◇北上山地が核廃棄物の最終処分場の適地などとする報道がありますが、非科学的な説であり、私達は絶対に反対です。
- ◇私達の豊かで美しい三陸の海と陸が核のゴミ捨て場とされないように、地方自治の精神に従って住民の安全を守る為の市町村条例の制定等を要請する運動に着手します。



「豊かな三陸の海を守る会」総会が五月二十七日宮古市内で約三〇人が参加し開催されました。総会では横田有平共同代表が「六ヶ所再処理工場は稼働延期に陥っているが気を許すことなく、豊かな海を守るために運動を続けよう」と挨拶しました。

議事では昨年度の経過報告と決算案が承認され、本年度方針と予算案も可決されました。

更に六人の共同代表と四人の世話人を選出し、事務局らの役員人事も承認されました。

## 高レベル放射性廃液事故が心配

### 7月中に日本原燃に出かけ、話し合います

**半年ぶりに再開された新規制基準審査会合**

五月一七日、再処理工場等核燃施設の審査会合が開催されました。二〇一四年一月に第一回が開催されて以来、二三四回目です。

三・一一以降「原子炉等規制法」が改正され「事業の指定」の条項に「放射線の管理」と「事故が発生した場合の対処に必要な施設と体制整備」が付け加えられました。「指定の基準」では、設計上定めるより厳しい条件で発生する「臨界事故・蒸発乾固・



講師 永田文夫氏

「審査申請書」の書類審査はほぼ終了に近づいていますが、問題なのは、実際に工場を運営している日本原燃の信用失墜行為が次々に発覚したことです。

◆二〇一六年八月に、再処理工場非常用電源建屋に雨水が入り、配管ピットに水が溜まっていたが一年間点検されず「異常なし」と報告されていた。

◆二〇一五年に再処理工場濃縮・ウラン工場のウランの置き場について

## 演題

再処理問題 講演会

日本原燃(株)六ヶ所再処理工場の動向と私達の運動

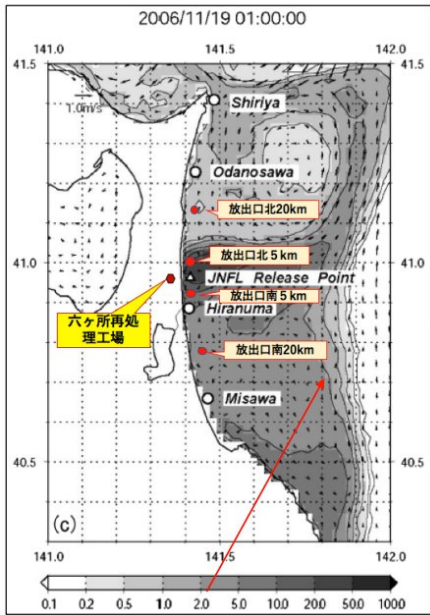
豊かな三陸の海を守る会の総会に盛岡から駆けつけた永田文夫さん(三陸の海を放射能から守る岩手の会世話人)が、六ヶ所再処理工場の最近の動向について講演しました。その内容を報告します。

「永田氏講演筆録」  
 A4 全19頁  
 当会ホームページ掲載中  
<http://sanriku.my.coocan.jp/>

水素爆発・有機溶媒等による火災・爆発」を重大事故とし、厳正的確に対処できる技術的能力と事業遂行能力を持つことが義務付けられました。

六ヶ所工場は施設の老朽化と事業者の管理能力の低下が問題

(図1) 計算予測基準地点と原燃・青森県実測地点図



↑ (赤矢印) は検出限界値の「2ベクレル/リットル」のライン

### 第1図 海水トリウム測定地点と濃度分布予測図

(出典: 日本原子力学会報告図に地点追加)

「保安規定違反・改善命令」が出されたが、改善されないまま昨年虚偽の改善報告がなされた。石原副社長も関わる組織的虚偽報告であった。

◆日本原燃は昨年一二月に、稼働時期を三年延長し、工場内外の総点検を実行するとした。その点検箇所は工場内約三〇〇〇部屋、屋外九〇〇エリア、約六〇万件が対象でした。

このような点検が必要という事態は事業者の日本原燃の工場管理統制能力が深刻に問われる事態です。そして工場施設そのものが着工以来二五年もたち、すでに老朽化し始めていることに注目するべきです。

**日本原燃は、少なくとも次の四つの疑問点に、誠意ある説明をしてください。**

①アクティブ試験中の海洋放出の測定値は本当に「測定限界値以下」でしたか？

②廃液の核種ごとの放射能濃度を明らかにしてください

③アクティブ試験でガラス固化は本当に出来たのですか？

④高レベル廃液貯槽の電源を喪失すると安全機能が失われます。沸騰や水素爆発までの時間をお答えください。

他の測定機関では検出されています。第1図の海水トリウム濃度分布予測図をどうみますか？「測定限界値」「2ベクレル/リットル」以上の海域があり、説明を求めます。(第1図参照)

使用済み核燃料をせん断し溶解して、残された高レベル放射性廃液のデータ(核種とその濃度)を公表してください。(第2図参照)

この廃液は強い放射線で水素が分離され、崩壊熱で沸騰します。電源が確保出来なくなったとき、「水素爆発までの到達時間」と「沸騰到達時間」を正しくお答えください。

### 第2図 六ヶ所工場の高レベル放射性廃液

一滴 (約0.05 ミリリットル) の<sup>137</sup>Csと<sup>90</sup>Srの放射能

**4.2 シーベルト** (経口摂取)

37とストロンチウム90だけでも半数致死越えの放射能

(注) Bq→Sv: 「線量限度等を定める告示」の係数により換算

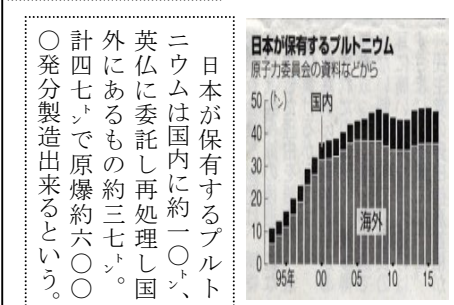
## 新聞記事から 朝日新聞2018.6.17



### 水めがね

**プルトニウム保有に上限 核燃料サイクル停滞し増加 政府対策強化 米の削減要求受け**

(記事要旨) 日本政府は原発の使用済み核燃料から再処理して取り出した「余剰プルトニウム」の保有量に「上限」を設けて余剰分が増えないように対策を強化する。核不拡散や核テロ防止の観点から国際社会の懸念が強まり、米国などから削減を求められている。



右の朝日新聞の記事はこれまで「日本の核」について私達国民が知ってることが如何に少なく、どう判断したらよいのか分からない現実が気づかされる。◆先ず「日本がプルトニウムを溜め込んで」「アメリカをはじめ国際的な懸念を呼んでいる」という点である。溜めたのは時の政府であり国民はむしろ「核爆弾」

なんてとんでもない、と思っている。◆日本国内の約一〇トは東海再処理工場で作った約七トと六ヶ所同工場で作った約三トであろう。もんじゅの廃炉が決定しプルトニウムは使い道がないのだから再処理はやめれば良い。◆日本は一九七〇年代後半から米国に対してかなり強行に「核燃再処理」を認めてもらう運動を行ったらしい。「平和目的の発電」のためという厳しい枠を前提として。◆

かし「日本の再処理を包括的に認める」日米原子力協定改訂時には、「核不拡散」を国是とする米国では疑問や批判の声があまりかなりもめたらしい。その改訂から三〇年。七月一六日以降は日米どちらかが「やめよう」といえば半年後には協定を「終了」させられる。但し手続きも「核不拡散の原則」で行うと定められているらしい。残念ながら「らしい」連発の文章になってしまった。(尚)

**六ヶ所村に新しい風 村長選 遠藤順子さん立候補**

六ヶ所村長選挙は六月二四日投票が行われ、遠藤順子候補は三三三票を獲得しました。遠藤氏は室蘭工大で工業化学や放射線学を学びさらに医師となった人。再処理反対・被曝阻止を掲げ、六ヶ所村から新しい風を起こそうと訴えました。内外から注目されて新しい動きが始まりました。

**DAYS 福島・被曝安全神話のワナ**

放射能を気にしなければ幸せになれるのか

小出裕章 著

「原発安全神話」から「被曝安全神話」へ

**DAYS JAPAN**  
8月増刊号 定価 2160円

## 本の紹介